

会 議 概 要

会議の名称	第2回伊予市食育推進会議
開催年月日	平成24年2月6日(月)
開始・終了時刻	午後2時30分から午後4時30分
開催場所	伊予市保健センター
会長氏名	坂本 勇人
副会長氏名	吉澤 三千久
出席委員(者)氏名	坂本 勇人、吉澤 三千久、佐々木 典彦、山中 千之、大西 英子、小西 千鶴子、松浦 義憲、酒井 隆行、松本 洋子、玉井 彰、菊地 敏和、宮内 忠彦(畑中委員代理)、岩本 君恵、片野 美穂子、村上 由美、島川 都季子、森 道子、森 史織、片山 忠(保積委員代理)、早田 亮、上田 誠一、井上 伸弥、山下 佳宏、福岡 保裕、海田 秀司、田中 浩、日山 一正
欠席委員(者)氏名	池田 武夫、宮内 宗徳、西影 永治、畑中 靖祥、保積 幸和
説明者の職氏名	室主幹、山内主任、まちづくり創造課 木曾主任
事務局職員職氏名	宮岡健康保険課長、中田所長、室主幹、山内主任、米入、合田
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 あいさつ 会長 坂本勇人 3 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 伊予市の食育推進の状況について <ul style="list-style-type: none"> ・伊予市の食育関係事業について ・あじの郷フェスタ実施報告 (2) 今後の食育推進について (3) 意見交換 4 その他 5 閉会
配布資料	<p>資 料 1 伊予市の食育関係事業実施状況一覧</p> <p>資 料 2 あじの郷フェスタについて</p> <p>資 料 3 ライフステージに応じた食育の推進</p> <p>資 料 4 伊予市の食育推進の年次計画</p>

会 議 録

発 言 者	会議の概要
<p>14：30～ 開会宣言 司会</p>	<p>只今より、第2回伊予市食育推進会議を開催いたします。皆様には、ご多忙の中、ご出席いただきましてありがとうございます。</p> <p>欠席、代理出席の方々について報告します。本日、池田委員さん、宮内委員さん、西影委員さんがご欠席ということで、ご連絡をいただいております。</p> <p>保積委員さん（中国四国農政局松山地域センター 主任農畜産安全管理官）に関しましては、代理ということで片山忠農畜産安全管理官においでをいただいております。畑中委員さんに関しましては、代理ということで、郡中小学校の宮内校長においでをいただいております。</p> <p>食育関係課から、まちづくり創造課の木曾智仁主任が出席しています。以上、報告いたします。</p>
<p>司会 開会あいさつ 会長 司会</p>	<p>それでは、開会にあたりまして、坂本会長、あいさつをお願いします。</p> <p style="text-align: center;">【開会のあいさつ】</p>
<p>(議事進行) ◆議題について 議長 説明員</p>	<p>それでは、この後の議事進行につきましては、食育推進会議条例第6条の規定に基づき、坂本会長に議長をお願いしたいと存じます。坂本会長、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、会次第に沿って議事を進行させていただきます。</p> <p>議題（1）伊予市の食育推進の状況について事務局より説明をお願いします。</p> <p>資料1：平成23年度伊予市の食育関係事業実施状況について。</p> <p>前回の8月23日の第1回食育推進会議の後、10月27日に庁内の関係課の職員で組織する食育推進連絡会を開きました。市全体で食育を進めていくよう来年度の食育関係事業の計画をすることや、現在広報に連載している食育物語という食育の啓発の記事の原稿を、連絡会委員で順番に作ることなど話し合いました。大きな食育関係のイベントとしては、9月11日にあじの郷フェスタ、10月16日にいよし健康福祉まつりの食育フェスタなどがありました。</p> <p>資料1を見てください。食育関係事業について、今年度の実施状況及び来年度の予定について説明します。資料1は両面印刷で全部で4ページになっています。右下にページ番号をふっています。23年度に実施した市の食育関係事業についてまとめたものです。いちばん右側の列に、24年度はどうするかというのを○をつけています。24年度から新たに始める事業は新規で、継続か廃止か、それぞれ当てはまる</p>

	<p>ところに○をつけています。</p> <p>それでは、事業を担当している主管課の課長から委員名簿の順に報告します。では、まちづくり創造課からお願いします。</p>
まちづくり創造課	<p>特産品についてのチラシ配布、遠隔地連携給食の支援、キッズキッチン</p>
福祉課	<p>食育だよりの発行、給食試食会・おやつ試食会、食育会議、クッキング保育、野菜栽培・収穫、ランチの写真の掲示（ぐんちゅう保育所ととりのき保育所は実物展示）、地域・学校との連携、食育講座</p>
長寿介護課	<p>目玉焼きクラブ（男性料理教室）、介護予防教室（元気いきいき教室）24年度も現状維持で続けていく予定です。</p>
産業経済課	<p>農産物の即売（いよし花まつり、土曜夜市、ひまわり祭り、えひめ・松山産業まつり、コスモスまつりなど）、農業体験交流会、各種イベントへの参加、魚料理講習会、歳の市、農林漁業体験活動など（双海地区グリーンツーリズム推進協議会）、なかやま栗まつり（観光協会中山支部）地産知招⇒地産地消に訂正。</p>
学校教育課	<p>食育参観日、給食のリクエスト献立を考える、給食試食会、6月の食育月間の啓発、給食週間の啓発、月見団子作り（平成24年度廃止）、カレー・お好み焼き作り、食育指導、学校給食へ地場産物の積極的な利用、伊予市の特産物を使った給食の実施</p>
社会教育課	<p>そば打ち体験教室（大平）、青年料理教室（中央）、老人クラブ料理教室（大平・中村・上野）、クッキング教室（中村）、メンズクッキング（郡中）、お菓子作り教室（郡中・双海）、おやつ作り教室（上野）、親子料理教室（郡中）、通学合宿調理体験（郡中・上野・双海）、わんぱく塾料理教室（中山）、三世代交流事業もちつき（中山）、女性塾郷土料理教室（中山）、レディースセミナー料理教室（双海）、公民館学級料理教室（双海）</p>
保健センター	<p>マザー教室、育児講座（にこにこ講座）、離乳食講座、幼児食育講座、親子ふれあい健康教室、個別栄養相談、初級料理教室、保健栄養学級、健康診査、成人歯科健診、特定保健指導、生活習慣病予防教室、乳幼児健康診査、食育推進リーダー研修会、健診結果説明会、育児相談、いよし健康&福祉まつり・食育フェスタ</p>
産業経済課より訂正	<p>「地産知招」は正しい。愛媛県松山市の食材等を県外の人を招いて知ってもらおうという意味があるようです。</p>
健康保険課 説明員	<p>いよし健康&福祉まつり 各課からの説明を終わります。 資料2：あじの郷フェスタ実施報告。 9月11日にはあじの郷フェスタというB級グルメの大きなイベントがありました。あじの郷フェスタとその他の取組について、まちづく</p>

り創造課の木曾主任から説明をいたします。

まちづくり創造課の木曾と申します。

伊豫國「あじの郷」づくり事業を通じた食育への取り組みについて全般的に説明します。伊豫國「あじの郷」づくり事業につきまして、どういったものかを簡単に説明させていただきます。

伊予市は古くから農業、漁業といった第一次産業をしていましたが、近年は若者の意識の変化や収入が安定しないということから第一次産業就業者というのが急速に減少しております。55年前は地域の6割近くの方が第一次産業に従事していましたが、現在では2割を切っている状況です。

地域内の農地保全や地域漁業の将来が非常に危ぶまれており、また若者の一次産業離れにより、一次産業の現場では深刻な高齢化に悩まされております。

今、伊予市ではこうした農業漁業といった第一次産業現場での後継者の育成、あるいは職業構造そのものの変換が急務と言われております。また深刻な高齢化というのは農業漁業といった第一次産業の現場だけではありません。

かつて伊予市の顔として栄えた中心市街地の商店街も顧客の志向の変化やモータリゼーションの普及、また、商店主の高齢化などにより、今では活気が見られません。誰も歩いていないような状況になっています。こうした地域に賑わいと活気を取り戻すために伊予市では平成20年5月に策定した地域活性化構想まちづくり計画の中に食・食べ物を軸として地域の活性化を行うということを明記して、その構想を伊豫國「あじの郷」づくり構想としました。

この伊豫國「あじの郷」づくりとは、「いよ」という自分たちの地域に自信と誇りを持ち、これまで受け継がれてきた歴史と文化を継承し、誰もが身近にかかわれる「食」という地域の宝を活用し「あじな面白いまち」をつくっていかうという構想です。

現在は、構想づくり・組織づくりを終えまして「あじの郷」づくり実行委員会という組織を結成し、連携して構想を具体化する段階にきています。伊豫國「あじの郷」づくりの構想というのは、中山間地域を含めた市内全域に人と物とお金の循環サイクルを作ること、また、市内の産品を市外に出荷していくことを通じてお金と人の流れを市内外で生み出すことで伊予市全体を経済的にも精神的にも活性化させることを主な目的にしています。

食育というのは伊豫國「あじの郷」づくりの最終的な目的ではありません。最終的な伊豫國「あじの郷」づくり構想の目的は、人と物とお金の循環による市内の活性化というところにありますので、食育とい

うのはその目的に向かって進む一部の事業の過程で生まれる複次的な効果になります。「あじの郷」づくり構想の中でも食育に関係する事業と関係しない事業があるということをご理解いただきたい。

例えば、伊予市内を食を通して活性化させて地産地消を推進していくということは、地域内の農業や漁業の経営者に経済的な利益になるとともに食の安心やカーボンオフセットといった食育の役目を果たすことができます。

また、地域子ども達に「地元のものを食べましょうね」「いろいろなものを食べましょうね」という取り組みは将来の消費者を育成することにつながりますので食育と特産品の販売活動は切っても切れない関係にあります。

このような考え方は市役所内の他の課も同じです。市役所の中にはいろいろな課があり、それぞれ違う仕事をしています。先ほど各課の課長からのご報告にもありましたようにそれぞれの課の業務には、それぞれ一部分食育的な要素も含まれています。ただ、食育とは全く関係ない仕事もあります。そうした食育的な要素を保健センターが事務局となっている連絡会で取りまとめて市役所としての一体的な動きにしていくことが今進められています。

さらに視点を広げ、先ほどご紹介した市役所の例の他にも本日お集まりの皆さま方の普段の活動や業務の中にも食育に関するところがあると思います。また、一般の市民のみなさん、本日も3名の委員のみなさんが集まっていますが、それぞれのご家庭でご飯を食べる時、料理をする時といった生活の中で食育的な活動をお子様に行っているのではないかと思います。

そうした今の段階では、それぞれみなさんが個別に行っています普段の取り組みの中にある食育的なエッセンスを抽出し、市内の食育推進に向けて一緒に取り組める相手を見つけ、情報を共有するためにこの食育推進会議があるものと私は理解しております。

またこれは、私たちが事務局をしております「あじの郷」づくり事業にしても同じ考え方です。普段は全く関係ない仕事をしておりますが、「あじの郷」という1つの目標に向かって取り組みの部分で連携していく取り組みをしております。そうした視点からあじの郷づくりの関連事業のうち、食育にも関係する取り組みをこれからご紹介します。

まずは、「あじの郷」五勇士というキャラクターをご紹介します。今回は伊予市の特産品のみかん（柑橘）、栗、びわ、鯛、鱧という伊予市の特産品を市内外の方に知ってもらい買ってもらう為、商品を促す為のキャラクターです。伊予市内の住民のみなさん、特に子ども達

に対して伊予市内の特産品を知ってもらうために立派な食育という仕事も担っています。さらにこのキャラクターは、バッジやクリアファイルなどのグッズにして、販売や配布をしました。リーダーのミカンまるに関しては今年度、着ぐるみを作成し、市内のイベントに参加させてもらうなど伊予市の食育に一役買っています。

続きましてイベントを通した食育についてご説明します。

伊予市は、鱧の水揚げに関して日本有数の漁場があると言われていますが、伊予市に住んでいる住民の多くは、伊予市が鱧の産地だということを知らない。または、伊予市民のみなさんが1回も鱧を食べたことがないということがあり、そこで市外の人はもちろん、市内の人にも鱧の産地であることを知ってもらおうと3年前から鱧に関するイベント「下灘ぴちぴち鱧まつり」というイベントを開催しています。

鱧まつりの会場内では、鱧を使った特産品の販売など行いました。特に食育に関する取り組みとしましては、親子で工作を楽しみながら鱧についての知識を深めてもらうための食育工作コーナーや伊予市が生み出した食育の父と言われている佐伯矩博士の紹介、また伊予市がすすめる食育推進計画に関するパネル展示なども行い、来場者の方々に伊予市の食育について知っていただくきっかけにもなりました。

また、幼いころから地域の特産品を知っていただくための取り組みとして、鱧まつりの時期に合わせて、市内全ての小中学校の給食に鱧のすり身を使った鱧団子を出してもらいました。これは、伊予市民なのに鱧を1回も食べたことがないという方がたくさんいらっしゃいましたので、学校の栄養教諭にご協力を頂き、鱧のすり身を使った給食を出すことで小学生のうちからもしくは中学生のうちから「鱧を食べたことがあるよ」「美味しいよ」というのを分かってもらう取り組みです。また同時に鱧について理解を深めてもらうためのチラシも配布して、伊予市が鱧の産地であること、鱧がどういう魚なのかをご紹介する取り組みを行いました。

この鱧まつりに関わる一連の取り組みは、伊予市の市役所だけでなく、漁協や観光協会、学校、「あじの郷」づくり実行委員会など様々な市内の事業所が一緒になって行っています。

もともとは鱧の普及促進を狙ったイベントですが、食育の役割も十分担う事ができたと考えております。

また、今年度初めて行った事業として、伊予市の食べ物で人を集めることができるのか、お金を集めることができるのかというのを確認するための事業として、伊豫国「あじの郷」フェスタというイベントを開催しました。食の祭典という位置づけで行いましたので食育も目的

の一部として捉え、食育に関する内容も盛り込まれておりました。その中で市内の小中学校の栄養教諭が子ども達を対象とした食育ブース、保健センターのブースでは、佐伯矩博士や食育推進計画の紹介、中山高校の生徒は伊予市の特産品を使ったB級グルメを考え出店、伊予農業高校と北宇和高校も出店してくださいました。大学生も伊予市の特産であるしらすを使って「しらす焼き」を作ってくれていました。このように開発の過程や販売の過程を通して、若い世代が伊予市の食や伊予市の特産品について考えてもらういい機会になったと思っています。

また、ステージのイベントでは保健センターの山内栄養士が野菜ソムリエの矢野邦子さんやタレントの真鍋かをりさんと一緒に伊予市が取り組む食育推進のこと、佐伯先生について紹介した他、市内の保育所の園児を交えた食育ダンス、幼稚園や保育所の園児に塗って頂いた「あじの郷」五勇士のぬり絵を展示したりするなど、親子で家に帰ってぬり絵を塗りながら「伊予市で鱧ってとれるんだね」と話してもらう機会にしました。

鱧まつり、「あじの郷」フェスタにつきまして、当初は、伊予市で行う「あじの郷」づくりの取り組みを広く知って頂くということを目指して始めましたが、食育の役割も十分担い、当初の役割を達成したので来年度以降は違った切り口からアプローチしていきたいと考えております。

それから「あじの郷」づくりの取り組みの中で鱧を給食にという例がありましたが、しばしば学校給食とも連携を行っております。

遠隔連携都市自治体ということで連携している山梨県北杜市の特産品の紫黒米（しこくまい）という古代米を給食に使ってもらいました。古代米を出すだけならすぐにできることですが、さすが伊予市内の栄養教諭は違います。古代米と一緒に山梨県の郷土料理の「ほうとう」を一緒に出してくださり、広い日本、地域や食文化には違いがあるということ子ども達に教えてくれました。そうした多様性を学ぶ機会を通して子ども達は伊予市の良さを知ってくれたのではないかと考えています。

このように今まで「あじの郷」事業ということで取り組みを行ってきましたが、今後予定している計画についてもご説明します。

まず平成24年度に予定している事業として、地元の野菜を学校給食に積極的に活用する取り組み、幼稚園と保育所の園児を対象にしたキッズキッチン、伊予農業高校と松山大学の学生との連携事業などを考えております。

まず、地元野菜を学校給食に活用する取り組みにつきましては、現

在、学校教育課、栄養教諭、まちづくり創造課が連携しまして、各生産者団体等と協議をしているところです。一部の農産物につきましては既に地元の農家から直接学校の給食現場に納入されている例がありますが、残念ながら給食材料の地場産率をあげるところまでは至っておりませんので、組織的に定期的に納入できる取り組みを考えております。

そこで本日、お越しの山中センター長、えひめ中央農協のほうにご紹介いただいた太陽市（中央農協が直営している直販市）と下吾川にあるいよっこらを提携先としてルートづくりを行いまして、今後、連携先を増やしていきたいと検討しています。現在は価格の設定や規格の管理、納入方法などをどのようにしていくか調整をすすめているところです。何とか平成24年度中にはルートを完成させて子ども達に美味しく安全な地元の野菜をたくさん食べて頂けるような取り組みにしたいと考えています。

また、こうしたノウハウを蓄積していくことで野菜だけでなく、魚や肉、加工品なども地元の生産者や加工業者から直接仕入れて新鮮で安心な地元産のものを使えるような取り組みを今後検討していきたいと考えています。

続いて幼稚園、保育所園児を対象としたキッズキッチンにつきましては、保健センター、学校教育課、福祉課、産業経済課、まちづくり創造課が連携してそれぞれ保育所や幼稚園また関係の生産者団体等と調整しながらすすめています。

昨年度、おおひら保育所で実施したテストケースですが、就学前の子どもたちを対象とし、本物の包丁やフライパン、鍋などを使って調理実習を行うことで、自主性や協調性を養い、伊予市の特産食材を学びながら好き嫌いをなくしていこうという取り組みです。

本日お越しの大西英子さんに昨年、おおひらの時には先生になって頂きました。この時は、伊予市の特産品であるしらす干しを使った料理をつくることで「伊予市はしらす干しがたくさん採れているんですよ」と知ってもらい、しらす干しが分からない子に対しては「しらす干しというのはいわしというお魚の子どもですよ」ということを教えながら小さいうちから伊予市の特産品を食べてもらおう、また、普通だいたい小学校の3・4・5年生の家庭科の授業と同等のことを幼稚園でさせます。普通だと火を使うのは危ないとか包丁は危ないとかいうところですが、たくさんのスタッフが見守る中、子ども達に最初「鍋の横は熱いから触らない」、「包丁は必ず使ったら包丁の座る場所においてね」ということをきちんと説明して子ども達を信頼して任せることで、子ども達に大きな自信をつけてもらおうというような教育の方針

説明員

となっています。平成24・25年度の2年で市内すべての幼稚園・保育所で実施したいと考えています。

最後に伊予農業高校と松山大学との連携事業です。これは学生だけでなく、市内の生産者や地元の各事業所とも連携して取り組んでいきたいと考えています。高校生や大学生は若い感性、柔軟な発想をもっているため、私たちや市内の事業所の方々と一緒に考えてもらいながら、市内のいろいろな人がそれぞれの得意分野を活かすことのできる地域の活性化に向けた取り組みにつながっていけばいいなと考えています。

こうした取り組みをして市内のいろいろな資源や情報が有効的に好循環を始めれば人と物とお金が常に回り続ける、私たちが目指す「あじの郷」づくり構想が実現されると考えています。

また、そのことは冒頭申し上げたように経済的な活性化だけではなく、食育の推進にもつながると考えています。

この会議にご参加の皆さまにおかれましては、今後とも食育の更なる推進に加えまして「あじの郷」づくりの取り組みにつきましてもご理解とご協力を頂きますようお願いを申しあげ、私からの発表を終わらせて頂きます。どうもご清聴ありがとうございました。

以上で伊予市の食育推進の状況について説明を終わります。

説明員

議長

議題（2）今後の食育推進について、事務局から説明をお願いします。

説明員

今後の食育推進について説明いたします。

資料3のライフステージに応じた食育の推進の表を見てください。ライフステージとは、人の一生を少年期・青年期・壮年期・老年期などと分けた、それぞれの段階のことをいいますが、市の計画では、各年代の特徴や課題に応じて食育を推進することを目指しています。

食育推進連絡会で、食育関係課の職員が、ライフステージによって、市ではどのような事業をしているかをまとめましたので報告します。

資料3の0～4歳、幼年期は、心身ともにもっとも成長が著しく、両親からの影響を強く受けるという特徴がある時期です。この時期に市では、マザー教室を行って母体と胎児の発育に必要な栄養指導等を行っています。子育て教室として離乳食講座、おやつ教室、幼児の食生活指導等を行っています。保育所・幼稚園では、食育教室や農業体験等の指導をしています。キッズキッチンでは、就学前幼児の料理教室を行っています。

5～14歳の少年期には、栄養教諭による学校での指導があります。学校給食では郷土料理を給食に取り入れたり、給食日よりで地場産品の紹介をしたり、特産品の活用などについて紹介しています。夏休みの時に親子ふれあい健康教室を開き、児童・保護者の料理教室を

しています。

15～24歳の青年期には、民公学連携事業として伊予農生、松大生と連携し、地場産品を活用した商品の開発及び販売促進や大学や専門学校などへの就学年齢層への食生活改善を行っています。

食育啓発普及のため伊予農生による保育園児との食を通じた交流等が行われています。

25～44歳の壮年期、45～64歳の中年期、65歳以上の高年期においては、メンズ料理教室を月に1回定期的に行っており、定年退職後の男性が30人ほど教室に入っており、料理を学んでいます。

保健センターで行っている健康教室では、成人・高齢者を対象とした健康づくり料理教室などを行っています。

食育フェスタなどの食に関するイベントでは、伝統的な食文化や食材のPRや販売等を行っています。

一次介護予防事業では、元気な高齢者を対象に栄養に関する教室を行っています。二次介護予防事業では、要介護状態となるおそれの高い高齢者を対象にした口腔機能向上の指導を行っています。

次に、資料4の食育推進の年次計画について説明します。これは、平成23年度から平成27年度までの5年間で計画の期間となっておりますが、その年次計画の内容です。

まず食育推進会議ですが年に2回程度開催する予定です。

伊予市食育推進連絡会は市の関係課の職員で組織し、伊予市食育推進会議や食育に関わる関係機関及び団体と連携し、食育の推進を図っています。今年度は10月に会を開きました。来年度は連絡会で班を作って進めていこうということになっています。また、次回の食育推進会議で報告したいと思います。

食育コンテストとしては、平成24年度は伊予市健康&福祉まつりに合わせて市内の小中学生の児童・生徒から食育に関する健康づくりポスターを募集して広く食育をPRしたいと思っています。

キッズキッチンでは料理教室を開催しています。

今年度は、健康まつりの食育フェスタでB級グルメの販売と伊予市食生活改善推進協議会が郷土料理の試食300食とレシピ配布を行いました。

来年度の伊予市健康福祉まつりと同時開催の食育フェスタでも同じようにブースを設けるようにしています。郷土料理の試食が好評だったので来年度も食生活改善推進協議会が郷土料理の試食を行うということで出店して頂ける予定になっています。

食育フェスタでは、まだブースに余裕もありますので、今日来ている団体の方でもし食育フェスタで何かしたいという方がいましたら

説明員

保健センターまで連絡してください。

食育情報の提供として、食育出前講座、広報いよしへ食育物語（食育だより）を連載、食育推進シールの配布、食育月間と食育の日の啓発、保育所入所児童保護者に向けた「食育だより」の発行。

あじの郷づくり実行委員会で季刊情報誌を発行。ラジオ放送を用いた市内特産品や人、活動等の情報発信事業をします。

食育推進の人材育成に関して、郷土料理や生活習慣病予防の料理等の指導者の育成ということで保健センターでは食育推進リーダー研修会を毎月開催しています。

地域での食育および健康づくり活動をしている食育推進リーダーの方が31名研修を受けています。

市内特産品のマッチング事業や試食会等を通して、市内の「食文化」に関するオピニオンリーダーの育成にも取り組みます。その他の食育として、地域と学校給食が連携して、佐礼谷地域で栽培・収穫した野菜を港南中学校に納入する地産地消の取り組みをしています。

伊予農業高校、松山大学との連携事業を通して、市内産品の普及促進に取り組むほか、就学年齢層の食習慣改善にも取り組んでいます。

以上で食育推進についての説明を終わります。

議長

ただいまの件について、ご意見、ご質問がありましたらお願いします。食育推進リーダー研修会ってどんな会ですか。

説明員

食育推進リーダー研修会ですが、市が行っている事業で食生活の改善や各地区で生活習慣病予防の食事に関して講習会を開いたりしています。現在、食育推進リーダーの方が伊予市で31名いますが、その方たちに対して毎月1回ずつ伊予市保健センターで研修会をしています。内容は生活習慣病予防の調理実習と健康づくり全般に関する話を毎月違ったテーマで行っています。その時に行った調理実習の献立（市の栄養士作成）を使ってリーダーの方が各地域の公民館や集会所に人を集めて伝達講習会という形で調理実習を行っています。研修でリーダーが学んだことを各地区に普及していくようにしています。

議長

分かりました。保健センターが主体となっているんですね。

説明員

今日、来て頂いている大西さんが会長をなんですけども保健センターのほうで講習会を受けていただいてそれを地域に持ち帰って各地域での伝達講習ということで各地域に広めていただいています。

議長

他に何か。

委員

かなりいろんなことをされているのがよく分かりました。

さっきまちづくり創造課の木曾さんのほうからから連携というキーワードが出てきたのですが、やはり、各課がやられていることをどのように横のつながりをもたせていくかということが大切だと思

ます。大きな視点ではどういうことを今やっているのでしょうか。見えているという意見もあるとは思いますが。

いろいろな事業をみさせてもらいまして、もう一歩先に何かあるかということ考えた時に、私は地域に何か還元できるもの、例えば各地域地域でコミュニティーレストランというものを開催して地域の交流、いろんな方に集まっていて、例えば男性がクッキングできるのであれば、そのクッキングの成果をその地域で昼食会など開いて私が作りまして出していくとか地域の中で食育・食に関する勉強をしたという成果が具体的な形で出せるような企画がもっと必要なのではないかと。

それと今、バッジをつけさせてもらっているのですが「あじの郷」づくりということで、こういう風にやっているよと知って頂こうという段階です。「あじの郷」フェスタという大きなイベントも行い、それを契機に「食」ということをもう一歩考えていこうと思います。

伊予農高と松山大学との交流ですが、この間、伊予農高の生活科学科の3年生が2年生に「私たちがこういうことを研究しました」という発表をしてくれる場がありました。4班に分かれてしてくれたのですが、食育の推進であったり、キッズキッチンであったり、地産地消だったり、特産品開発だったりしたわけです。そういう意味では、この伊予農高の生徒さん達の活動は素晴らしいなど、生活科学科に限らず、学校全体が非常に地域貢献されている、ボランティアされている。中山高校が閉校になります。伊予市から高校がひとつなくなるわけです。これはやはり中山高校のことを考えると、20年前にさかのぼって中山高校を中山の自分たちの学校だと誇りを持った学校運営をやって、絶対にこの学校をなくさない取り組みを20年前からやってらっしゃった。伊予農高は何かというと、これから先の少子化というのは、ものすごい勢いです。愛媛県142万ですけども、しばらくしたら100万人切ってしまう状況の中で、高齢化より少子化のほうが大変なダメージを与えるわけです。そういったときに伊予農高を伊予市の学校として守り抜くということ、あるいは誇りを持って子どもたちがこの学校に通えるようにするために市民としてどれだけの力を貸せるかということ、我々は考えないといけない。実は教育長さんと市長にもメールをしました。港南中学校や伊予中学校に生徒が自分たちの後輩に私たちの学校にきてほしいということ、ぜひやっていただきたいなと思います。もちろん高齢者関係もありますからそれ以外のところにもいろいろ問題はあるかもしれませんが、学校教育課の課題としてもそういうことがあっていいのではないかと思います。

話をまとめますが、連携ということ、地域との関わり、具体的な何

委員

か、一例ですけれどもコミュニティーレストランとかカフェ、もう1件、伊予農高の活動に関して、販売をしてはいかん、儲けちゃいかん、県の方針だといわれています。でも、生徒さん達は、高校を卒業、あるいは大学を卒業したら社会に放り出されるわけです。競争社会で生きていかななくてはいけないのに儲けちゃいけない、商売しちゃいかん、販売しちゃいかん、ということだとめられています。

伊予農高の名物のクッキー、これが販売されるとなると町家では行列ができるわけです。だけど、これが一体、何で行列ができるのか、美味しいからなのか、値段が安いからなのか、これは実践してみないと分からないわけです。生徒さん達がもっと販売を工夫して、こういう風にしたらどうだ、ああいう言い方をしたらもっといけるのではないかと、特産品についてもそれがどういう形で市民に提供できるか、販売ルートを考えてみるとか、そういう具体的、視点的な作業が大切。型をはめられたら子ども達の将来の可能性をそいでしまうと私は思います。与えられたものをやる「これが教育ですよ」と上から目線でやっていく時代はもう終わったのではないかと。生徒さん達が社会人として通用するためには、いろんな自由を認めないといけないわけですから食育もそういう観点から社会との関わり合い、この社会の中で生きていくための力を与える、そういうような観点も必要なんじゃないかと思えます。以上です。

議長
委員

伊予農高の菊池校長、何かありますか。

地域から伊予農業高校を本当に大切にさせていただいて、ありがたく思っております。地元の農業高校としては、食育に関しては精一杯お役に立てるところがあれば役立っていききたいし、それが本高の役割でもあろうと思います。園芸流通課というのがありまして流通という名前がついておりますので、農産物の売り方とか流通であるとかを勉強をしております。誤解があってははいけませんけども、儲けるといところばかりにいくとやはり問題もあるだろうと思います。どういうものを作ってどういうものをどういう売り方をするかと非常に大事なことです。そういう勉強ももちろん学校でやっています。今日もお話をいろいろ伺いまして2、3思ったことがあります。

食育ということで、保育所・小中学校・幼稚園など取り組みをたくさんされていますけども、小さい時から食育を継続してやっていくことは非常に大事なことだと思っています。健康で自分の育った故郷を愛する人間を育てていく上では、地元でとれたものを小さい時から食べるとか、特産品を実際作ったことを通して自然と故郷を愛する気持ちが身に付くのではないかと思えます。伊予農としても保育所との交流をさせて頂いて、食育とも言いますし、食農教育という言い方

委員

をする場合もあるのですが、子ども達に野菜など自分で作らせ、食べさせる。ピーマンの嫌いな子も食べるという事もよく言われます。高知県南国市で、棚田でご飯を作らせてそれを教室で炊飯器を使ってご飯を炊いて、そして給食で食べた。そうするとご飯が好きの子が増えたというような取り組みもありました。継続してそういうことをすることが大事だと思う。そのためには指導する先生の意識が大事になってくるでしょうし、先生は転勤がありますけれども、転勤しても継続してやっていけるそういう組織を作っていくことが大事ではないかと思います。

もう1つは、米の問題です。地元の特産品を給食で使うのは大事なことであります。今、自給率が下がっていて当然、農家の数はどんどん減っています。これは当然のことだと思うのですが、米の消費がなかなか伸びない。これをそれぞれの自治体単位でうまく米の消費に結びつけている実践例がなかなか少ないと思うのです。その辺を食育物語で取り組んで、いかに米の消費を伊予市として伸ばしていくかを考えてもらいたい。米粉の需要というのものもあるのだとは思いますが、その辺もどこかに含められるところがあればもっと幅ができていいのではないかと思います。以上です。

議長

貴重な意見ありがとうございました。

事務局で何かありますか。

説明員

玉井さんのほうから連携についてのご質疑頂いたのですが、それにつきましては、市役所のほうでは食育推進連絡会を開催し、担当者が定期的集まりまして、方向性についていろいろ協議をしているところ。それぞれの担当部署がより合う事により、単独でやっている事業について、各担当が理解し合い「それだったら一緒にやっていけるな」というのを今出し合っているところですので、また今後もその体制で進めさせていただいたらいいなと思っています。

委員

伊予農の校長先生から教育という視点でお話頂きましたけれども、私が聞いたところでは、県教委単位で他県ではそういう販売等の自由を認めて、もっと高校生に具体的な役割をもたせるような活動を認めているようです。

その点は愛媛県にも働きかけて子ども達が教育ということで客体として扱われるのではなく、自分たちが社会人予備軍だという考え方で取り組めるような学習になるといいのではないかと思います。

食育の最終目的は、意識の主体になるような人間形成、リーダー育成だと思う。伊予市が伊予市として存続していくためには、幼児のころからやっていく、今の子どもさんは王様で出されたものが好きだ、嫌いだといって発言できるが、それを自分の包丁をもって取り組み

委員

ば、自分が作ったものだから食べないといけないという自分がやったこと責任をとるといような考え方で、当事者しての意識が高まるわけです。地域リーダーが養成できるような学校教育であってほしいと思います。

連携のことはよくされていると思います。発展形態についての地域の関わり合い、65歳以上の親父さんが料理できるようになれば、発表の場がないとダメ「作れますね」で終わるのではなく、作ったらそれを社会に還元する、自分たちが教えてもらったのだから何かお返ししようということに結びつくところまでいかいといけないと思います。もう一歩先の地域との関わり合いを考えた施策をしたらどうかと思います。各地域に公民館や集会所がありますので、その地域の方々に食を提供するというのとか。

地域リーダーといっても、いろいろなリーダーいまして、自分の周囲2、3人に影響を与えられるだけでもリーダーだと思いますし、何十人に影響を与えるのもリーダーだと思うし、何百人、何千人に影響を与えられるのもリーダーだと思います。リーダーのなりようはさまざまですが、自分はこの町の間でこの町をこうしたい、誇りを持って言える、そういうような人が増えればいいなと思います。

議長

いろいろありがとうございました。
伊予農高で販売する、どうなのでしょう。
他県では事例があるのでしょうか。

委員

「他県では」という発想がもうすでに古いと思います。我々がどうなのか。他県のことを言いましたが、今、私たちはどうするか、その制度のありようを考えるべきだと思います。

説明員

玉井さんのほうからありました販売に関して何ですが、先ほど紹介をいたしました「あじの郷」フェスタの中でも実はそれが問題になりました。

伊予農業高校の他に中山高校と北宇和高校の3校の高校が出店してくださったのですが、販売対象になっている商品については、売り上げを原材料費という形で県に歳入をするということで販売しております。生徒がお金を儲けたり、先生が儲けたりということではなく、あくまでも県に材料費の還元ということで歳入に入れているようです。当初の予算にない事業の販売はできないということで、今回の秋のイベントにつきましては、3校ともが配布という形で無料配布させていただきました。

その辺からも玉井委員長も懸念材料として思われていると思います。そういった中で今「あじの郷」実行委員会の中で検討しておりますのは、販売の部門というのは、委員長も申し上げましたように高校生

説明員

も勉強したらいい部分ではあると思うのですが、今は、県の方針で難しい部分もあります。それをたちまち今すぐ来年度から変えましょうというのは難しい話ですので、まずは連携を深める中で市内のお菓子屋さんや料飲店さんと連携することで高校生が作ったメニューを実際に売れるように連携先を作っていくことで対応できるのではないかと考えております。

高校生が作って高校生が売るというのも1つ大事なことです。それも視野に入れて見据えた動きをしながらもたちまちの動きとして高校生が作ったメニューを市内の飲食店で販売してもらったり、高校生が作ったメニューを市内のお菓子屋さんを作って販売してもらったり、販売の方法やPRの方法も高校生自身で考えてもらうようなことをすれば県の歳入に入れなくても構わないという1つの解決の方法になるのではないかと思います。それが必ずしも正解ではないかもしれませんが1つの方向性として検討していきたいと考えています。

議長
委員

ありがとうございました。他に何か。

事務局にお聞きしたいのですが、連携ということで今年度のイベントに松山大学の学生も入ってくれたという話もありましたし、いろいろアイデアも出して頂いてというのがありました。松山大学以外にも愛媛大学他、いくつか大学があると思いますが、松山大学と継続して何か食育をやっているとかそういうルートまたは経緯みたいなのがどういう形であるのか教えて頂きたい。

説明員

今回、連携の対象先として松山大学としましたが、特に市として協定関係を結んでいるわけではありません。

きっかけは、今回の「あじの郷」フェスタの運営に関しまして松山大学の学生さんのボランティアの方が入って下さっているというのがありまして、今、学校だけで何かをやろうというのではなく、学校のノウハウや人材を使って社会に貢献していきましようという動きが、非常に盛んになっております。先ほど玉井委員長が申しましたように社会に出る前にいろんな経験を積むことで社会人としての基礎力を養成しようというような動きが学校にあります。

松山大学と「あじの郷」づくり実行委員会のほうで調整した結果、お互いのメリットになるのではないかとということで、今回、松山大学と連携をしました。

特に松山大学とだけ連携していくというわけではありません。

今後もし愛媛大学とか東雲大学、聖カタリナ大学といった県内の大学、そしてまた高校に関しても、今後もしラブコールを送られたり、もしくはこちらが送ったりというような関係の中で深めていきたい

説明員

と思います。まずは関わりとして松山大学さんと今回手をつないで事業をしていこうという経緯になっています。

このような説明でよろしいでしょうか。

委員

松山大学のほうから働きかけがあったということですか。

説明員

最初にラブコールを送ったのはこちらからですが、それに非常にいい回答を頂いたというような経緯です。

議長

他、どなたか意見はないですか。

委員

ジャガイモとかにんじんは人間の手で剥くのではなく、機械が剥くそうです。そうすると規格がそろわないといけないということがあったので、少子化の問題で給食というのが学校で食べるものをそこで作るのではなくて、何か所かにまとまって作っていますよね。そうすると大量に作らないといけなくなった半面、機械化になったということで自分たちが作ったものが規格に合わないで給食では使えない問題があるそうです。

それと魚に関してもお腹の身と背中身の身とあったら、子ども達は食べるのは平等性を求めるために同じ形の物そろえないといけないそうです。そうすると自分たちがとった魚をその食育にもっていくとなると、そこもまた問題が出てくると思います。そういうことに関して、どういう風に対処していくか教えてもらいたいと思います。

議長

どなたか答えられる人いらっしゃいますか？

委員

地産地消の話ですが、今年度、主食である米を伊予市産に変えました。金額は40円程高くなりましたが、伊予市産ということに限定して、最初は「ひのひかり」、よくよくは「あいのゆめ」を送ってもらうことになりました。伊予市の給食の使用率が上がったと思います。ジャガイモ、にんじん、たまねぎは、機械で皮をむくという最初の処理をしております。しかし、芽をむいたりするのは手作業で行っています。そういう関係で大小が混ざっていると皮をむく際に均等に剥けないというような問題があるので、なるべくそろっていたほうがいいなということで現在はそうしています。

学校給食とJA、いよっころ、24年度から試験的に野菜を納入したいという取り組みを始めることになっておりますので、その段階でまた地元産のものをどれくらいまで規格がバラバラでも可能かというようなことも実践しながら考えていきたいと思っています。

議長

以前も地産地消で、いちごなんかを洗ってもらっては何の意味もないという意見もあった。ただ給食となると、学校のほうの衛生のほうで問題もあり、難しいものがありました。魚のことに関して給食となると難しいのでしょね。他、何かありますか。

委員	<p>魚の話ですが、魚の頭を食べても尻尾を食べてもそんなの家庭でよくやっている話なので、平等性がというが、誰を意識して平等にしているのか、モンスターペアレント意識して言っているのか分かりませんが、子供に選ばせたらいいと思います。選ぶという事の中に社会性も身につくし、みんなが同じのを選んだ場合は、じゃんけんで決めて、子ども達に考えてもらいながらやればいいので、みんなを平等にというのは過剰すぎると思います。これは誰かがおかしいと言わないといけない。そういう躍動感のない学校教育の場ではダメだと思います。</p>
(議事進行)	<p>他に意見はございますか。</p>
議長	<p>それでは以上で終わりたいと思います。</p>
司会	<p>最後にその他の項目ですけれども、何かありますでしょうか。</p>
事務局	<p>次回の食育推進会議は来年度7・8月頃を予定いたしております。どうぞよろしくお願ひします。それから、今日配布した資料と計画の冊子はファイルに綴じて、次回の会議のときに持参するようにお願ひいたします。</p>
司会	<p>それでは、閉会のあいさつを吉澤副会長が申し上げます。</p>
閉会あいさつ	<p>【閉会のあいさつ】</p>
副会長	<p>大変貴重なご意見を頂き、将来にわたって考えていかないといけないような問題も提案して頂いたと思います。</p> <p>前回配られた伊予市食育物語の冊子37ページ、22年度のポスターがありますが「育てた人の思いを食べよう」とポスターに書かれています。この言葉に非常に感激しました。食べ物は必ず人が介在していると思います。食育というのは、そこのところは忘れてほしくないなと思っています。また長くこの会に関わっていくことになると思いますが、これからもどうかよろしくお願ひをいたします。今日は本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。</p>
司会	<p>以上をもちまして、伊予市食育推進会議を閉会いたします。</p> <p>次回の推進会議のご出席をよろしくお願ひいたします。本日はありがとうございました。</p>